

**情報基盤研究開発センター**

I	研究水準	.....	研究 20-2
II	質の向上度	.....	研究 20-3

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、査読のある学会誌・国際会議議事録等に掲載された論文数は、平成 18 年度までの 3 年間は平均 15.7 件であるが、平成 19 年度に 55 件、教員一名当たり 3.44 件と増加が著しい。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金は過去 4 年間の平均で 8.5 件（金額で平均 1,375 万円）となっている。その他の外部資金としては、受託研究で平成 19 年度に 2 億 7,200 万円を受け入れているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、当該センターの全国共同利用計算機システムは、全国 7 か所に設置されている情報基盤系センター群の中で最も大規模な計算機システムによるサービスが可能である。年度別利用登録件数は平成 19 年度において 900 件を超え、共同利用による研究成果としての論文も平成 18 年度には 572 件（口頭発表等の 320 件を含む）となっていることなどは優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、情報基盤研究開発センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、情報基盤研究開発センターが想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 2. 研究成果の状況

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した研究業績は見られなかったものの、共同研究により広い分野での成果、特に、情報通信技術及び教育研究支援技術で優れた研究成果を上げている。社会、経済、文化面では、卓越した研究業績は見られなかったものの、情報セキュリティ分野において、例えば、高等教育機関のための情報セキュリティ対策ガイドラインの検討活動を行っているなどの相応な成果である。

以上の点について、情報基盤研究開発センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、情報基盤研究開発センターが想定している関係者の「期待

される水準にある」と判断される。

なお、提出された研究業績説明書のうち、優れた業績と判断できるものが少なかったことから、今後の自己評価能力の向上が期待される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は1件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

